



# GREEN LETTER

## グリーンレター

**Vol.308**

2022/12/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. ポータブル魚道

02. 湖畔の風景



今月の一枚



**Photo**

## 「ハナカジカ」

表紙写真・文／町田善康

気温が下がってくると、鍋がおいしい季節です。鶏肉や豚肉など具材は種々あれど、やっぱりカジカが一番です。普通は、トゲカジカなどの海産種を使います。作り方は簡単で、ぶつ切りにした身を鍋に入れ、肝臓を細かく砕いて味噌に溶きます。カジカ鍋はあまりに美味しいので、箸で鍋底をつついて壊してしまうので、別名「鍋壊し」とも言われます。もちろん、川にいるハナカジカを使っても、美味しい鍋になります。ぜひ一度ご賞味ください。

# Event. 今月のイベント

企画展「おひろめコレクション展」 12月3日(土)～1月15日(日)

ロビー上映会「昭和の美幌、昭和の北海道」 1月31日(火)まで

博物館講座(芸術編)「無幻博物館へようこそ」 12月17日(土)

プチ工房「お正月の団子飾り」 12月23日(金), 12月24日(土)

# Information. 参加者募集

博物館講座(歴史編)「夢幻博物館へようこそ」

- 12/17(土) 10:00-12:00 ● 博物館1階 講座室 ● 参加費 300円, マスク ● 松田真莉子(美幌博物館)
- 美幌博物館へ電話申込み(-12/16)。対象は中学生以上～一般(小学生以下は保護者同伴)。定員12名で締切。

プチ工房「お正月の団子飾り」

- 12/23(金), 24(土) ① 10:00開始, ② 11:00開始, ③ 14:00開始, ④ 15:00開始, 所要時間45分
- ※作品ができ次第終了 ● 美幌博物館1階 講座室 ● 参加費 300円, マスク ● 城坂結実(美幌博物館)
- 美幌博物館へ電話申込み(-12/22)。各回定員12名で締切。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

プチ工房「足が動くウサギをつくろう！」

- 1/13(金), 14(土) ① 10:00開始, ② 13:00開始, ③ 14:30開始, 所要時間60分 ※作品ができ次第終了
- 美幌博物館1階 講座室 ● 参加費 300円, マスク ● 松田真莉子(美幌博物館) ● 美幌博物館へ電話申込み(-1/12)。各回定員12名で締切。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発熱がある、あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは、内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により、一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上、ご参加ください。

## 12月の休館日

5日, 12日  
19日, 26日  
30日, 31日

## 1月の休館日

6日まで  
10日, 16日  
23日, 30日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

# 01 GREEN COLUMN グリーンコラム

## ポータブル魚道

写真・文／町田善康



秋、海での暮らしを終えたサケ達たちが生まれ故郷の川に帰ってきました。しかし、私たちの暮らしを守るため、コンクリートで固められ、ダムが造られた川は、サケの行く手を阻はばみます。

そこで、10月22日、美幌町内にある網走川水系の支流で、サケの遡上を助けるために、持ち運びができる魚道（ポータブル魚道）を設置しました。魚道の設置には、小学生が4名、大人は12名が参加し、遠くは東京都からいらした方もいました。参加者からは、「簡単な材料で川の流れが改善できることに驚いた」や「とても環境に良い取り組みだ」という感想が寄せられ、活動を通して、環境保護の意識を醸成じょうせいできたと思っています。

今回、ポータブル魚道を設置した場所も、前述した川と同様に、川底と川岸がコンクリートで固められてお

り、水深が浅く、水の流れが早くなっています。そのため、サケは、上流に遡上することはできなくなっていました。もちろん、ポータブル魚道を設置すると、水深が確保され、水の流れが緩やかになり、サケはスムーズに段差を越えていきました。非常に簡単な仕組みでサケを遡上させることができるので、今後、同様の取り組みが、多くの地域で広がっていくと嬉しいです。困っているサケが、少しでも川を遡上できるようになっていくことを願います。

## 02 GREEN COLUMN

グリーンコラム



# 湖畔の風景

写真・文／鬼丸和幸



**仕**事柄、時間を見つけては、展示会や教育講座用に、生きものや自然風景の写真を撮影しています。写真や動画などは、視覚に訴えるインパクトが強く、撮影者が、苦勞の末、思いを込めて撮影した写真というのは、見られた方も、きっと思いを共有できるものだと思っています。

屈斜路湖は、湖畔に湿原が点在しており、夏になると、ヘイケボタルの姿も所々見られたりします。ホテルがずんでいる自然風景を、写真に残そうと思い、度々通っているうちに、素敵な場所を見つけました。小沢が湖に流入している場所で、ヤチダモの大木が湖面にせり出し、情感豊かな雰囲気、かもし出しています。この場所は、林道からヤブをかき分け、湖面に降りた場所なのですが、「この時期、ヒメマスを食べに、朝晩ヒグマがよく現れるので注意！」と言われた場所でもあり

ます。日没後、辺り一面がブルーに染まる頃に、どうしても撮影したく、クマスプレーを携帯し、ラジオのボリュームを上げ、鈴をジャンジャン鳴らしながら、湖岸に三脚を立てて、日没を待ちました。この日は雲もなく、日が落ちると、湖面は見事なブルー色に染まり、神秘的な景色を見せてくれました。しかし、さすがに怖いので、30分程で急いで引き上げました。

翌日の日中、再度この場所に行き撮影していると、釣り人が現れ、「あそこに、クマの足跡があるべさ」と指を指した湖岸の岸辺には、砂地に点々とつけられたヒグマの足跡が…。夜中でも、現れたのかもしれませんが。

観光地とは言え、現在も野生の雰囲気が色濃く残る屈斜路湖の自然。その魅力は尽きません。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・八重柏誠

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 ( 72 ) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / [museum@town.bihoro.hokkaido.jp](mailto:museum@town.bihoro.hokkaido.jp)

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

## 学芸員のつぶやき



.....  
「脚立の昇り降りですの痛み取れない」「左肩・腕  
しびれが取れない」「アリナミン飲んでも効か  
なくなった」「えるびす丼完食きつい」「時々施錠し  
たかどうか思い出せない」「針穴に糸通せない」「奥  
歯 2 本失った」…まだ先だと思っていた老化が、  
進みつつあります（泣）。